

CHILDCARE LEAVE FOR MEN

長崎大学病院 男性職員の育児休業取得者コメント集

Nagasaki University Hospital

A collection of comments from male employees who took childcare leave

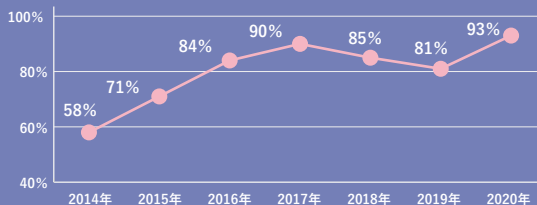


メディカル・ワークライフバランスセンターでは、長崎大学病院で育児休業を取得した男性職員へインタビューを行い、コメント集にまとめました。新しい命が誕生した時、夫婦が協力して過ごすことで、その後の生活が変わったという経験談を、是非ご一読ください。

男性職員の育児休業取得を推進し、安心して仕事と生活が両立できる職場づくりを目指します。

長崎大学医学部の男子学生の育休取得願望は高まっている！

自分も育休を取ってみたい(男子医学生)



調査:長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
長崎大学医学部3年生を対象に行った学生講義の受講後アンケート結果

男子医学生は
9割が
育休取得希望！



コメントの全文はあじさいプロジェクトWebサイトに公開しています！

ホーム>長崎県内病院の取り組み>私たちのワークライフバランス実践術～男性の育児休業取得編～



お問い合わせ 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター tel.095-819-7979(内線7979)

E-mail:info01@nagasaki-ajisai.jp URL:http://nagasaki-ajisai.jp



あじさいプロジェクト
NAGASAKI AJISAI PROJECT

あじさいプロジェクト 長崎

Search



Case1 2児のパパ (30代)

- 所属 / 長崎大学病院 心臓血管外科
- 取得年月と期間 / 2019年9月・2週間
- 取得時の赤ちゃん / 第2子・生後2週

Q.取得の決め手

A. 医局長から「ぜひ取得して！」と後ろ盾があったので、その言葉に助けられました。第1子の幼稚園など生活があるので、妻は里帰りをしませんでした。第2子が生まれてすぐは、妻の母が2週間手伝いに来てくれ、その後の2週間は、私がバトンタッチして育休を取得しました。

Q.家族の反応

A. 育休申請の手続きのために出産1か月前くらいに伝えると、**すごく喜んでいました！**

Q.職場の反応

A. 休業前にあまり公にしていなかったで、「最近いなかったね。育休取ったの、へえ〜?!」という感じでした。

Q.取得して良かった点や悪かった点

A. 母親の大変さがわかって良かったです。第1子が生まれた時、妻は1か月ほど里帰りをしたので、新生児を抱っこする機会はありませんでした。第2子は抱っこできたので、印象的でした。私の育休が終わると、妻は子ども2人の世話で大変だったようです。職場の方に、迷惑をかけることがマイナス面ですけど、家族にとって**マイナス面はない**と思います。

Q.家事・育児分担は？

A. 主に第1子の世話、掃除・洗濯、食事、買い物や、外に出かける用事は私がしました。日中は、赤ちゃんが泣いたら抱っこしたり、オムツを替えたりして、夜は、私は休みました。自分ができそうなことを主に担当して、特に日中は妻に休んでもらいました。

Q.他の男性職員にも育児休業取得を勧めたいですか？

A. 取得できるのであれば、**ぜひ取得してほしいです**。うちの診療科は、講師をはじめとして、チーム制で協力してくださる所が大きかったです。次も機会があれば、許される限り、取得したいです！

Q.男性職員が育児休業を取得しやすくするためにどのような施策があれば良いと思いますか？

A. 診療科内の**協力と理解**だと思います。今回は、上司である医局長が中心となって動いてくださったことが、育休を取得できた一番の要因ですが、『自分たちだけでは声を上げにくい』のが現状だと思います。

パートナーにお尋ねします

Q.父親の育児休業取得はいかがでしたか？

A. **良かった**！家族が集まって日常生活が送れた事で、私も第1子も『**心の安定**』につながったと思います。夫の育休中は、第2子の育児に専念できました。以前から「無理しなくていいよ」と言ってくれましたが、育休後は、より一層、家事ができていない部分をサポートしてくれたり、できていない事を責めたりはしなくなったと思います。

Q.育児休業後のパートナーの家事や育児への関わり方には満足されていますか？

A. 帰ってから、お皿をたまに洗ってくれたりするのは、感謝しています。

Q.今後、日本社会で、男性の育児休業取得者が増え、家庭への参画を進めていくためには、どのような男女の意識変革が必要だと思われますか？

A. 『男性が育休を取る事が、夏休みを取る事と同じくらい、**当然の事**』となれば良いと思います。

Case1 と Case2 の上司にお尋ねします

Q.なぜ育児休業取得の促進を考えられたのですか？

A. 私の両親は、共働きの教師でした。働く女性の大変さは母を見てわかっていて、男女平等に、できれば男性も育児に携わることは大事だと思っていました。母は家庭科の教師だったので、「男も台所に立たないといけない」とよく言っていましたね。そんな記憶もあり、Case1先生と、Case2先生にお子さんが生まれるという話を聞いたので、私から教授に育休を取るのはどうでしょうかと朝のカンファレンスで提案しました。

Q.他の診療科にもおすすめしたいですか？

A. ぜい！うちの診療科でもできましたから、業務の調整次第です。うちの科は、当直は40代の私まで入れて8人で担当するので、育休中は7人で担当していました。うちより当直人数が多い科であれば、育休を取得させる人員的余裕はあるように想像できます。当科では、この先もできるだけ育休取得を推奨していきたいと思っています。



Case2 1児のパパ (30代)

- 所属 / 長崎大学病院 心臓血管外科
- 取得年月と期間 / 2019年10月・2週間
- 取得時の赤ちゃん / 第1子・生後6週

Q.取得の決め手

A. 暗黙の了解として「(男性が育休を)取るという選択肢はないのでは？」と思っていました。教授や医局長から勧められて、初めて「あっ、取っていいんだ。」と思えました。第1子が生後6週で、妻が里帰りした実家から自宅に戻るタイミングに2週間取得しました。

Q.家族の反応

A. 初めてのことなので、産後の大変さは想像できていませんでしたが、夫婦と一緒に育児ができて、**感謝してました**。私の父親は、なんか勘違いして、「平日休んでいるんだったら、一緒に釣りに行こう。」と誘ってきました。行っていませんけどね。でも、「子どもの世話をちゃんとしているのは、すごいね。」と言われましたし、自分たちの時代とは違うと思っていたようです。

Q.職場の反応

A. 同じ診療科の先生からは「いなかった時は大変だった。」と言われましたが、**快くカバー**してくれました。

Q.取得して良かった点や悪かった点

A. 一日を通して、妻がひとりでどれだけ育児をしているのか、よくわかりました。仕事をしていると、日中の変なことがわからないと思います。平日の昼間に、子どもを抱っこして外に出かけることが、新鮮でした。公園に連れて行ったり、お宮参りにも行くことができ、「こんな世界があるのか！」と思いました。マイナス面は、子どもが可愛くて仕事に行きたくなくなってしまうことと、私が休むことで周りの人が、カバーが大変になることです。

Q.家事・育児分担は？

A. 私は、哺乳瓶での授乳や、料理、掃除、洗濯のほか、妻は外に出られないので買い物などをしていました。入浴は連携プレイで、妻が子どもを洗って、私が着替えを準備して着せていました。育休後の今は、買い物はまとめて週末にしたり、ネットで買ったりしています。掃除や洗濯は妻が日中に行っています。お風呂掃除は今も私がしていて、食事の準備は、週末などできる時にはやっています。料理は得意です。皿洗いは、妻より早いです！家事の分担は、子どもが生まれる前と、ほぼ同じですね。

Q.他の男性職員にも育児休業取得を勧めたいですか？

A. はい。同じような立場の人がいたら、**育休取得を勧めます**。他の診療科の先生からは、「心臓血管外科で取得できたのなら、どこの科でも可能だろう。」と言われました。良い先例になったと思います。

Q.男性職員が育児休業を取得しやすくするためにどのような施策があれば良いと思いますか？

A. 周囲の**協力**が不可欠なので、外堀から埋めて行くと良いと思います。難しいかもしれませんが、『義務化』してみたらどうでしょうか。

パートナーにお尋ねします

Q.父親の育児休業取得はいかがでしたか？

A. **良かった**！具体的には、実際に育児の大変な部分を体験、経験してもらえた、家事をしてくれた、おむつ替えの抵抗感がなくなった等。私的には、初めての子どものお世話で、話し相手がいるだけでも『**精神安定剤**』になりました。

Q.今後、日本社会で、男性の育児休業取得者が増え、家庭への参画を進めていくためには、どのような男女の意識変革が必要だと思われますか？

A. 育休を取る方もその周りの方も『**取得するのが当たり前**』という職場の環境が一番だと思います。また、忘れてはいけないことは『**感謝の気持ち**』で、夫や支えていただいている夫の職場の先生方、私の職場の消化器内科の先生方に、本当に感謝しています。



Case3 3児のパパ (30代)

- 所属 / 長崎大学病院 消化器内科
- 取得年月と期間 / 2020年9月・5日間
- 取得時の赤ちゃん / 第3子・生後すぐ

Q.取得の決め手

A. 育児休業5日、リフレッシュ休暇3日、土日祝6日を合わせて、きっかり2週間休みました。妻がどちらかの実家に滞在することは難しい状況だったので、出産後は自宅に帰ることを決めていました。3人目を妊娠中から、私家事と育児をする範囲を広げていましたので、妻1人で家事と怪獣2人と赤ちゃんのお世話をするのは無理だと見当がつかしました。「自分が休もう」と、妻の妊娠中に決めました。

Q.職場の反応

A. まず、チームリーダーに相談し、二つ返事で「いいよ、休みなさい」と言ってくださいました。実務の上司や医局長も快く応援してくれました。

Q.取得して良かった点や悪かった点

A. もう少し長く休めたら、妻の体調を回復させるには良かったかもしれませんが、医局のスケジュールや周囲への影響を考えると、2週間くらいが許される範囲で自分なりに妥当かなあと感じました。マイナス面はないですね。プラス面として、私は今回、妻の身体を休ませる事が目的だったので、育児取得は一つの手段でしたが、目的を果たせて良かったです。

Q.家事・育児分担は？

A. 赤ちゃんのお世話も含めて基本的に全ての家事と育児は私がやるようにしていましたが、赤ちゃんの沐浴は下手なので妻にやってもらいました。また料理は苦手なので、妻の指示通り作ったり、双方の親にご飯を作り置きしてもらったりしました。妻は身体をあまり動かさなくないように、夜の授乳以外は、できるだけ私がやりました。



Q.他の男性職員にも育児休業取得を勧めたいですか？

A. 取得できる職場環境と、パートナー(妻)の希望があれば、取得をお勧めします。

Q.男性職員が育児休業を取得しやすくするためにどのような施策があれば良いと思いますか？

A. 『身近にいる男性医師が育児休業を取得している』と、自分も取ろうかなと考えるきっかけになると思います。私は必ずしも取得する必要はないと思うんですけど、取りたい人が、取れることが当たり前になるためには、『上司や管理職から働きかけてもらえる』と良いですね。

パートナーにお尋ねします

Q.父親の育児休業取得はいかがでしたか？

A. 良かった！ 私たちにとって今回が最後の出産計画なので、夫は新生児と長く触れ合える良い機会になりました。(第1子・第2子の時は、転勤等が重なり一緒に過ごせなかったのです。)

Q.今後、日本社会で、男性の育児休業取得者が増え、家庭への参画を進めていくためには、どのような男女の意識変革が必要だと思われますか？

A. 『男性が育児や家事に対して、当事者意識を持つ』こと、『男性が家庭参画するに当たり、女性がパートナーに対して、申し訳ないと思わない』こと。

Case3 の上司にお尋ねします

Q.実際に医局員が取得してみて、いかがでしたか？

A. 育児に関しては前もって診療体制を整える時間があるので、医局として問題ないと感じました。私も機会があれば、取ろうと思います。

Q.他の診療科にもおすすめしたいですか？

A. 育児を取った先生の充実度は非常に高いと思いますので、可能であれば勧めます。



Case4 1児のパパ (30代)

- 所属 / 長崎大学病院 事務部人事企画課
- 取得年月と期間 / 2019年9月・3か月間
- 取得時の赤ちゃん / 第1子・生後8か月

Q.取得の決め手

A. 生まれてすぐは、長崎大学の特別休暇※を2日間取得しました。生まれてすぐのタイミングで育休を取得したかったのですが、私の仕事の繁忙期と重なるため、別の時期にという考えでした。育休中の妻の様子を見て「取った方がいいな」という思いは日増しに強くなりました。
※「男性職員養育休暇(常勤教職員のみ)」:妻の産前産後休暇中に男性職員が取得できる5日間の休暇

Q.家族の反応

A. 妻は、いざ取れるとなると、喜んでいました。妻の母は、共働きしながら子育てした経験から大変さを知っていて、心配しながらも喜んでくれました。

Q.職場の反応

A. 同じ課内の人たちに理解してもらえた事が、一番ありがたいことでした。当時の課長からは、好意的に声をかけてもらいました。育休に入る前や復職後に、いろんな人から温かい声や「どうだった?」と話しかけてもらいました。女性職員の先輩方からは、参考になる経験談を聞くこともでき、ありがたかったです。

Q.取得して良かった点や悪かった点

A. 子どもの成長ぶりを家族で共有できた事が、一番良かった所ですね。あとは、育休中に家事や育児を妻と一緒に一生懸命やって自分のものにできたことで、復帰してから気軽に引き受けられる事です。この育休中の経験のおかげで自分も楽でよし、家族にとってもとても良いことだと思えます。今は、子どもの寝かしつけは、妻より上手かもしれません！
仕事面では、周りの同僚に負担がかかってしまうこと、また、育休期間が長くなると、収入が減るので、人によっては取りたくても取れない場合があると思うので、マイナス面と思います。

Q.家事・育児分担は？

A. ちょうど離乳食を始めた時期で、食事は妻、掃除や洗濯は私がメインでしたが、お互い相談しながらその時できる方がして、買い物は一緒に行くことがほとんどでした。育児に関しては、特に分担していませんでしたが、夜の寝かしつけは妻でないとまよくいかなかったため、昼寝や外出したときの抱っこはできるだけ私がしました。うちは母乳とミルクの混合授乳だったため、昼は母乳で夜中は妻を休ませるためにミルクにして、私が作るようにしていました。おかげで、私も家事や育児を一通り問題なくこなせるようになりました。

Q.他の男性職員にも育児休業取得を勧めたいですか？

A. 取りたい気持ちがあれば、取った方が良いと思います。仕事の調整や準備は必要ですが、育休を取ってみたいと分からないことがありますし、経験することで色々なことが変わります。私自身、復帰後、時間の使い方や子どものコミュニケーションの取り方など、大きく変わったと感じています。育休に対する考え方も変わりました。できるだけ早いうちに上司や同僚に相談をして、育休取得に向けて取り組めるといいと思います。

Q.男性職員が育児休業を取得しやすくするためにどのような施策があれば良いと思いますか？

A. 一番に、『職場の理解』が必要だと思います。組織としては、『育休までの準備や引継ぎのノウハウ』が構築されれば、取りやすくなると思います。上司が「取っていいよ」と言ってくれる環境があると、実際に取得するかどうかに関わらず、ありがたいですし、考えるきっかけになると思います。自分と同じような立場(管理職)になったら、言えるようになります。

パートナーにお尋ねします

Q.父親の育児休業取得はいかがでしたか？

A. 良かった！ 1人ではできない事(おでかけやゆっくりお風呂に入る)等ができました。

Q.育児休業後のパートナーの家事や育児への関わり方には満足されていますか？

A. 満足しています。積極的に子どもと遊んだり、遅く帰ってきても一緒に寝かしつけをしてくれます。育児休業取得前より、もっと楽しんで育児をしています。

Q.今後、日本社会で、男性の育児休業取得者が増え、家庭への参画を進めていくためには、どのような男女の意識変革が必要だと思われますか？

A. 『育児は男性が「手伝う」のではなく、夫婦で「協力」して行うという意識変革』が必要だと思います。



Case5 1児のパパ (30代)

- 所属 / 長崎大学病院 事務部人事企画課
- 取得年月と期間 / 2020年8月・4か月間
- 取得時の赤ちゃん / 第1子・生後6か月

Q.取得の決め手

A.妻と育休について話し合っ、妻の希望もあり、また同じ課内に育休を取得した男性がいたことの影響は大きかったですね。折角の機会だし、前例より長く取得しようと思いました！

Q.家族の反応

A.非常に良かったです。妻も、お互いの両親の反応も良かったです。

Q.職場の反応

A.前例ができていたので、課内ではそれほど大きな驚きはなかったと思います。上司からは「頑張ってきて！！」と、理解を示してくださり嬉しかったです。他課の知り合いには驚かれたりもしましたが、皆さん好意的な反応でした。

Q.取得して良かった点や悪かった点

A.正直もっと長く取りたかったですね。プラス面は、子どもと密に接する時間があること、妻の育児・家事負担の軽減ができたことです。マイナス面は、育休中の私の仕事が他の人の負担になること、育休期間が長いほど、復帰して勤を取り戻すまでに時間がかかることだと思います。

Q.家事・育児分担は？

A.私は、食事・お風呂・ミルクで、妻は、洗濯・掃除です。それ以外は特に分担を決めず、お互いがやるようにしていました。子どもが生まれる前から、週末の食事作りはなるべくやっていました。今は平日でもできる限り作っています。朝から仕込んだり、週末に作り置きをしています。



Q.他の男性職員にも育児休業取得を勧めたいですか？

A.育児取得をお勧めしたいです。生まれてからお母さんは授乳など本当に大変です。育児の負担や悩みを一番軽減・共有できるのはお父さんです。「授乳以外はお父さんでも出来る」という言葉を聞いてから本当にその通りだと思います。

Q.男性職員が育児休業を取得しやすくするために、どのような施策があれば良いと思いますか？

A.『男性の育休が義務化されないと厳しい』と思います。しかしながら、まずは『各職場で男性の育休取得も当たり前という意識』が必要だと思います。

パートナーにお尋ねします

Q.父親の育児休業取得はいかがでしたか？

A.良かったです！！授乳トラブルがあり、たびたび病院へ行った際、自宅で子どものお世話をしてもらえたので、本当に助かりました。『出産後、子どものことだけでなく、お母さんは自分のケアも大変』だと思います。できるだけ多くのお父さんが育休を取得できるようにお願いします。

Q.育児休業後のパートナーの家事や育児への関わり方には満足されていますか？

A.満足しています。できるだけ、残業せずに早く帰宅しようとしてくれて、います。夕方になると私も疲れているので、ありがたいです。

Case4 と Case5 の上司にお尋ねします

Q.実際に事務職員が取得してみて、いかがでしたか？

A.事務部として育休を取りやすい環境を整備していく必要があると感じています。これは男女問わず言えることですが、部署内の人数が少ないためなど、周囲のことを気にして育休が取りにくくなることは避けなければいけません。大学全体で女性職員の比率は増加傾向にありますし、育休を取得する可能性がある職員を把握したうえで、適正な人事配置を行えるのは理想的かと。性差によるハラスメントを避けるためにも、女性職員の皆さんに上位職(部長・課長・課長補佐・主査)へ昇任いただき、だれもが妊娠・出産・産休育休などを相談しやすい職場環境形成にご協力いただきたいです。

Q.他の診療科にもおすすめしたいですか？

A.はい。是非取得してください。子どもは宝です。パパとママ両方で積極的に育児を行うことで夫婦生活も円満になると思います。私自身はまだ独身ですが、育休は取る気満々です。そして、育休を取りたい男性職員は、『私と一緒に働こう！』とアピールしたいです。



Case6 2児のパパ (30代)

- 所属 / 長崎大学病院 事務部医事課
- 取得年月と期間 / 2019年11月・2か月間
- 取得時の赤ちゃん / 第2子・生後3か月

Q.取得の決め手

A.妻は県外への里帰り出産で産前・産後の約4か月、上の子ども連れて帰省したため、上の子どもは保育園を退園しないといけないことになり、実家から自宅に戻った後、2人の子の面倒を見るのが大変だよね、という話になり、私の育休取得を考えるきっかけになりました。ちょうどその頃「他課の男性職員が数か月の育休を取得するらしい」という話を耳にしたので、自分も取得出来るかもと思い、相談する気になりました。

Q.家族の反応

A.妻は喜んでいました。私の親は、「逆に邪魔になるんじゃない？」と言っていました。

Q.職場の反応

A.快く受け入れてくれたと思います。「取れてよかったね」と言われました。

Q.取得して良かった点や悪かった点

A.プラス面は、初めての育休期間ずっと家にいて、妻の大変さが身に染みてよくわかったことです。それと、子どもと濃密な時間を持てたことです。マイナス面は、ほとんどないですね。

Q.家事・育児分担は？

A.私は上の子どもの面倒を見る事が目的でしたが、3歳のイヤイヤ期で手を焼きました。食事は妻がほとんど行い、それ以外は気づいた方がやるようにしていました。共働きなので1人目の子どもがいる時から、掃除、お風呂、ゴミ出し、洗い物、洗濯などはしていました。赤ちゃんのお世話もお互いに気づいたときに、できる方がやっていました。

Q.他の男性職員にも育児休業取得を勧めたいですか？

A.育児取得をお勧めしますが「取りたい！」という勇気はいると思います。長期間休むので、本当に良いのだろうかと思悩むことがあるかもしれません。私は「前例を作ろう」と思い切りました。

Q.男性職員が育児休業を取得しやすくするために、どのような施策があれば良いと思いますか？

A.男性が育休取得を躊躇する理由は「周囲への仕事の負担」だと思います。周りの人も、その人の分をカバーしないといけないと思うので、そこを改善する方法を考えないといけないと思います。自分から言い出すには、ちょっと勇気があるので、『職場が、育休取得の希望を聞いてくれて、前もってスケジュールを決めて仕事の調整ができる』といいですね。

パートナーにお尋ねします

Q.父親の育児休業取得はいかがでしたか？

A.良かったです！楽しい事も大変な事も1日ずっと育児に関わらなければ、わからない事があるので、共有できて良かったです。

Q.育児休業後のパートナーの家事や育児への関わり方には満足されていますか？

A.満足しています。仕事がどんなに遅くても自分の分の皿洗いだけでなく、残っている洗い物やお風呂掃除などをしてくれるので、ありがたいです。

Q.今後、日本社会で、男性の育児休業取得者が増え、家庭への参画を進めていくためには、どのような男女の意識変革が必要だと思いますか？

A.『仕事も家事も育児も夫婦(もしくは家族全員)でするもの』という意識。幼い頃の教育から変えていかないと、そういった意識を持つ事は難しいと感じています。